

■現地研修 1 日目： 7 月 9 日（日）

9 時 5 0 分、楽しみと不安、それぞれの思いを抱きつつ熱気を帯びた 4 0 名の生徒を乗せた飛行機は一路羽田空港へ向けて出発。早朝より、校長先生はじめ諸先生方、そして保護者様のお見送り、誠にありがとうございました。

ほぼ定刻に羽田空港に到着後、早めの昼食と休憩を取り、長時間のフライトとなる国際線出発まで、それぞれ束の間の準備の時間といたしました。幸いにもこの時間帯での空港内混雑はなく、国際線への乗り継ぎ手続き及び出国手続きは至って順調、ほどなくしていざアメリカ（経由地ロサンゼルスへ）へと出発いたしました。



同日 9 時 2 5 分、ロサンゼルス（Tom Bradley International Airport）空港に無事到着。機体を降りると早々に入国手続きへ。機械による登録手続きに若干苦戦しつつ（日本語表記が可能です）も全員完了、入国審査官による指紋認証と写真撮影も当然問題なくクリアし、ターミナル 3 へと移動いたしました。さすがに世界でも 7 番目の旅客数を誇るロサンゼルス国際空港、手荷物検査場での混雑はもちろん、空港内を行き交う人々の人種や言語の多様さにアメリカの大きさを感じ、エネルギー溢れる雰囲気若干圧倒されつつ、ボストンへの飛行機に乗り込みました。



22時50分、44名を乗せたデルタ航空機は無事ボストンに到着いたしました。西海岸経由での長時間フライトと時差による長い長い一日の終わりがようやく近づいてきたことへの安堵とかなりの疲労とが混ざった表情の生徒たちを乗せ、早速にバスにてタフツ大学へ出発。30分ほどにてタフツ大学内の学生寮（Carmichael Hall）に到着いたしました。

到着後、準備していただいたスナックやジュースで一息着いたのち、早々に施設利用の注意、明日のスケジュール確認を終え、解散。各自短時間でシャワーを済ませ就寝となりました。



富山空港での出発式、福島校長先生からいただいた二つのキーワード「たくさん失敗をする研修」そして「自ら大いに楽しもう」をそれぞれの「高い」目標のなかで実践し、大きな自信と今後につながるたくさんの課題を持ち帰ってくれる研修となることを期待します。そして、同じく出発式での代表生徒森本君からの言葉にあった「自己発信力」と「リーダーとしての意識」、富山中部生であれば多くがすでに備えている資質でしょう。しかし、世界を感じ、自己を見つめ、チームとしての成長を考えるこの研修のなかで、改めてその必要性を強く感じるものと期待し、プログラム初日の報告とさせていただきます。

